

## 令和2年度環境保健センター機関評価結果

### 1 運営方針及び重点分野

非常に優れている	優れている	妥当	見直しが必要	全面的見直しが必要
なし	5人	2人	なし	なし

県の行政課題に対応するに当たって、「県民の安全・安心を科学的・技術的側面から保障する機関」として適切な重点分野を設定して役割を果たしている。特に、新型コロナウイルス感染症への検査体制整備や情報発信等の対応は評価できる。

ただし、限られた人員や予算で業務を行うに当たって、行政検査と調査研究のバランスや優先順位をもう少し明確にする必要がある。また、県政の基本目標に基づくのみではなく、センター独自の役割や、県民との一体感をより醸成できる方策を検討し、業務に取り入れてほしい。

### 2 組織体制及び人員配置並びに予算配分

非常に優れている	優れている	妥当	見直しが必要	全面的見直しが必要
なし	4人	2人	1人	なし

新型コロナウイルス感染症への対応のための体制整備は十分評価できる。

ただし、通常時の業務は、効率的に運営しているともいえるが、限られた人員と予算で行わざるを得ない状態が継続している。定期的な人事異動を踏まえた検査技術及び分析機器の維持管理に係る技術の継承のための工夫、並びに業務充実のための予算の確保・拡大が求められる。業務充実としての外部資金の獲得は、組織体制及び人員配置の制約もあり難しいが、意識していくべき事項である。

### 3 施設・システム・機器

非常に優れている	優れている	妥当	見直しが必要	全面的見直しが必要
1人	4人	1人	1人	なし

関係課と協議しながら計画的に更新が行われていることは評価できる。今後も国の交付金等を活用する等の工夫をしてほしい。また、整備した機器等の維持管理ができる人材の育成や予算の確保も望まれる。加えて、新型コロナウイルス感染症等に対応するために整備した機器等は、現在のところ十分活用されていると思われるが、今後の調査研究における更なる有効活用を検討してほしい。

### 4 行政検査、依頼検査、研修指導等の実施状況

非常に優れている	優れている	妥当	見直しが必要	全面的見直しが必要
2人	5人	なし	なし	なし

行政検査は県民のニーズに十分応えて実施している。特に環境分野の行政検査は、全国的に見ると、近年は手法の確立したものは外部委託する方向であるが、緊急時対応や技能継承等のため、行政検査機関においても一定の対応能力を有しておくという判断は適切と考える。ただし、効率化の観点から、外部委託と直営実施との適切なバランスを検討することが望ましい。保健分野の行政検査は、感染症の流行等により今後も検査数が増加する際には、関係機関との調整等により、対応能力の維持に努めてほしい。

研修指導については、若干減少傾向であることが気になるが、大学生や専門学校生を対象とする指導にも積極的に取り組んでいる点は評価できる。感染症への対応等時勢を踏まえたテーマについて、引き続き実施することを検討してほしい。

## 5 研究成果

非常に優れている	優れている	妥当	見直しが必要	全面的見直しが必要
なし	5人	2人	なし	なし

全体的に見ると、様々な制約の中で、着実に研究成果を蓄積している。ただし、学術誌掲載論文数については努力の余地がある。行政検査等と連携した研究もあり、業務での活用も十分図られていると判断されるが、学術的に見ると、分野によっては更なる発展が期待される。

行政検査及びそれに関連する調査研究と、中長期的に活用が図られる可能性がある学術的な調査研究のバランスや優先順位について、センターとしてももう少し明確にした上で、岡山県にとってメリットのある研究課題に取り組んでほしい。

## 6 他機関との連携

非常に優れている	優れている	妥当	見直しが必要	全面的見直しが必要
なし	5人	2人	なし	なし

さまざまな制約の中で、国の研究機関、他の自治体の環境・衛生研究機関など、多様な主体との連携を適切に進めている。

今後は、連携の核となる独自の強みを持つ努力を継続することや、地域密着の認識が深まる取組に期待したい。

## 7 人材育成

非常に優れている	優れている	妥当	見直しが必要	全面的見直しが必要
1人	4人	2人	なし	なし

育てた人材が3年程度で流出してしまうのは残念だが、行政（本庁等）と研究（センター）との人事交流が常時なされていることは、研究員が個々の専門分野に閉じこもらず、住民のニーズや県としてのニーズを適切に把握し、センターの業務に柔軟・迅速に反映していくことができるようになるメリットがある。限られた時間の中で、何をどう伝授していったら育成するかに目を転じて向かっていくことが重要である。各分野でマニ

ュアル化とOJTによる技術伝承を推進していることは評価する。研究者又は技術者として成長できるような、業務のモチベーションや質を高める工夫を引き続き期待したい。

## 8 県民・地域への貢献、情報提供等の実施状況

非常に優れている	優れている	妥当	見直しが必要	全面的見直しが必要
なし	4人	3人	なし	なし

ホームページにおける大気汚染や環境放射線等に関する情報のリアルタイムでの発信、感染症等の発生状況についての継続的な発信、講師派遣や公開講座の開催等、県民・地域への貢献は十分行われているものと高く評価できる。また、広報のあり方についてセンターを挙げて検討し、改善を順次図っている点は評価できる。

しかし、具体的な改善の効果がまだ明確ではないので、今後の成果に期待する。SNSでの動画配信等、対面でない広報の方法を含め、内容の工夫を検討してほしい。

## 9 前回指摘事項への対応

非常に優れている	優れている	妥当	見直しが必要	全面的見直しが必要
なし	6人	1人	なし	なし

前回の指摘事項については、真摯に受け止め改善の方向に努力されたと評価する。調査研究費の確保や研究成果の公表などは、短期間で改善できるものではないので、今後も更なる努力をしてほしい。また、所内のみで対応が難しいものについては、関係課への働きかけも引き続き行ってほしい。

## ○ 総合評価

非常に優れている	優れている	妥当	見直しが必要	全面的見直しが必要
なし	7人	なし	なし	なし

限られた予算、人員、時間の中で、各分野において多種にわたる業務を着実にやっている。今後は、センターの設置目的を十分に熟慮して、行政検査に代表される実務型業務と学術的な調査研究とのバランスを判断するとともに、社会情勢の変化や県民のニーズを的確に把握して各種業務を実行して行ってほしい。